

第4版序

この用語集の目的は、それぞれの概念に対する日本語の術語を示すことにある。便宜上、英和の形をとっているが、左欄の英語の術語は、右欄に対する概念を提示していると理解していただきたい。一方、和英の部は、左欄の日本語の術語に対応する標準的な英語のそれを示している。

1988年の初版以来、「一つの概念には一つの術語が対応する」という原則を、用語委員会はとってきた。さまざまな事情から、一つの概念に複数の術語がある場合があるが、可能な限りこれに優先順位をつけるようにした。2番目以降の術語を括弧()で囲んであるときは、そのような意味である。

用語集一般がそうであるように、この用語集でも、術語について新しい規範を設定するよりは、現状の追認と整理が主な目的である。今回の大改訂でも、日本眼科学会の評議員ならびに全国の眼科教授を中心に広く意見を求め、新規項目の採録など、時代に即したものになるように努力した。

編集の基本方針は初版のそれを踏襲している。とりあげる術語、すなわち語彙の選択にあたっては、実際に使われている現場からこれを採録し、類書からの転記や電子的に拾うなどの便法はとらなかった。「参考文献」の教科書類は、そのような意味で活用している。「辞書作り」の正統的なこの方法の利点として、従来の類書にある「幽霊語」を除外でき、さらに、いま使われている意味と形での術語を収録することができた。

関連項目を一括して掲載することを、今回の版では実行した。色彩・色覚関係、電気生理関係 (EOG, ERG, VEP)、超音波診断、コンタクトレンズ、眼内レンズ、屈折矯正手術、

This is a Japanese language publication entitled "Ganka Yōgoshū", which is catalogued in the Japanese Library of Congress.

Translated title, the editor and the year of publication are as follows:

Terminology in Ophthalmology

Nihon Ganka Gakkai (Japanese Ophthalmological Society)
©Fourth Edition, 1999, published by Nihon Ganka Gakkai

眼位と眼球運動に関連する用語群がそれである。

遺伝学関係の術語もこれに含めた。眼科学が特に遺伝学と関係が深いことや、最近の目覚ましい進歩を考えてのことである。これらの新しい試みで、概念の整理をしやすくなったことは、若干のページ数が増加した不便を補って余りあると期待している。

「先天白内障」のように、誤解がない限り「性」を使わないことは、すでに「眼科術語集」(1931)で実行されたが、今回の新版でもこれを拡充した。「性」の扱いについては、いくつかの基本原則にしたがって処理したが、その詳細と、その他の具体的な問題点については、本用語集付録の「解説」と、日本眼科学会雑誌第102巻2号(1999年)に別掲したので、参照していただきたい。

網羅的であることは、あえて意図しなかった。もし完全な眼科用語集を作るとすれば、英和の部だけでも現行の3倍の項目が必要になり、非実用的になることが必至だからである。化合物、薬剤、商品名などを採録していないこと、さらに、人名を冠した用語の多くがないのは、このためであるとご承知いただきたい。

略語は、今回の版では大幅に増加した。これは利用者の便宜を考えてのことであり、略語の使用を奨励するものではない。3字以内の略語のほとんどは、ここに挙げた以外に別の意味を持っている。もし論文を執筆される場合には、その初出時にフルスペリングを出して説明するという作法を守っていただきたい。

改訂に当たっては、多くの方々からの建設的な提案をいただいた。なかんずく、東 郁郎、猪俣 孟、宇山昌延、小原喜隆、河崎一夫、桑山泰明、小林俊策、田澤 豊、太根節直、田淵昭雄、早野三郎、深見嘉一郎、松井瑞夫(順不同)の諸先生からは、それぞれ20項目以上についての貴重なご意見を

寄せていただいた。その他の方々と合わせて、報われることの少ないこの事業へのご協力に対し、ここに深甚な謝意を表明する次第である。

原稿作成は、臼井正彦*、澤 充、西信元嗣、清水弘一*、馬嶋昭生、松橋正和、丸尾敏夫*の7名で構成される用語委員会が担当した。星印(*)があるのは、初版以来の用語委員である。具体的には、委員長である清水が素案を作成し、これに用語委員が繰り返して検討を加え、最終案を確定した。最終原稿の作成と校正は、清水が担当した。誤記がないように極力努めたが、もし問題があれば、用語委員一同、ことに委員長である清水の責任である。

言葉は生き物であり、眼科学も常に進歩している。この用語集もいずれ改訂が必要になろう。もしご意見があれば、日本眼科学会経由で用語委員長までお知らせ願いたい。

ささやかな本ではあるが、この用語集が21世紀に向けての眼科学の発展に寄与することを期待している。

1999年2月

日本眼科学会用語委員会